

日交研シリーズ A-738

平成 29 年度自主研究プロジェクト

「夜の生活活動を支え生活の質を向上させる都市と交通のあり方に関する研究」

刊行：2018 年 12 月

夜の生活活動を支え生活の質を向上させる都市と交通のあり方に関する研究
City and Transportation for Increasing Quality of Life with Safe, Secure and Comfortable
Nighttime Activities

主査 大森宣暁 (宇都宮大学教授)
Nobuaki OHMORI

要 旨

24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが求められるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。本プロジェクトメンバーらは、これまで土木計画学研究発表会において、夜の都市計画に関するセッションを企画し、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を再認識した。以上の背景から本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加できる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

昨年度に実施した 15 大学の大学生の余暇活動と生活の質に関するアンケート調査データの分析の結果、大都市の大学生の方が、余暇活動の満足度および主観的幸福感が高い傾向が明らかとなった。また、海外諸都市と我が国の飲酒環境の違い等についての議論を通して、我が国の特に大都市における公共交通の利便性の高さは、帰宅交通を含めた夜の飲酒活動の質の高さに貢献している可能性が高いことを確認した。さらに、地方都市において衰退する歓楽街の活性化に関する研究の一環として、宇都宮市泉町・本町を対象に、自治会長や飲食街振興会会長等を交えて、衰退の経緯および活性化の可能性について意見交換を行った。その結果を踏まえて、泉町・本町を含む宇都宮市内 3 か所の歓楽街来訪者に対して、夜の飲酒活動の実態および泉町・本町に対する意識を把握するためのアンケート調査を実施した。その結果、泉町・本町と他 2 か所との来訪者の個人特性や来訪理由の違い、泉町・本町に対するイメージ、街灯や交通規制の変更による来訪頻度増加の可能性等が明らかとなった。

キーワード: 夜、活動、都市、交通

Keywords: nighttime, activity, city, transportation